

表 令和6年10月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第81～88号	4日、7日、11日、14日、18日、21日、25日、28日 16時00分	活発な噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石飛散、火映の状況。18日の爆発で噴煙が火口縁上4000mまで上がり、大きな噴石は5合目（火口より約1300m）まで達した。昭和火口では噴火及び火映は観測されず。現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放出量は、2500、4000 [t/日]（18日、21日）で非常に多い。 火山性地震、微動の発生状況。 GNSS連続観測では、桜島島内の基線で1月頃から山体収縮のわずかな縮みがみられ、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では長期にわたり地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる。 始良カルデラ地下深部にマグマが蓄積した状態で、火山ガス放出量も概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。
		降灰予報(速報)	18日 01時40分	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	18日 01時51分	噴火発生から6時間先まで（1時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 火口周辺規制)	解説情報 第84～87号	4日、7日 16時00分 11日 16時05分 14日 16時00分	9～11日の現地調査で、引き続き古岳火口周辺及び新岳火口西側割れ目付近に地熱域を確認。10日の鹿児島県協力による上空からの観測で、新岳火口及び古岳火口において火口内に留まる程度の白色の噴煙と、火口内やその周辺で地熱域を確認。前回と比較して特段の変化はない。 火山性地震は古岳火口付近浅部でやや多い。新岳火口で白色噴煙を観測。GNSS観測で、2023年11月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動がみられ維持されている。火山ガスの放出量や古岳の地熱活動は2023年6月からの活動以前より高まった状態。新岳火口及び古岳火口の周辺において噴火の可能性がある。
		火口周辺警報	18日 11時00分	主に古岳火口付近の火山性地震は8月中旬頃から減少。火山活動に低下傾向が認められるが、火口付近浅部のやや活発な地震活動と、火山ガス（二酸化硫黄）の放出は継続。 新岳火口及び古岳火口から1kmを超え、また西側は新岳火口から2kmを超えて影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったが、引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火のおそれがある。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第88～89号	18日 11時10分 25日 16時00分	23日の現地調査で、引き続き古岳火口周辺及び新岳火口西側割れ目付近の地熱域と、古岳火口で火口縁をわずかに越える白色の噴煙を確認。古岳火口付近で火山性地震が8月中旬頃から減少。新岳火口付近の火山性地震は少ない。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2023年8～12月より減少しているが、2023年6月以前より多い。GNSS連続観測で、2023年6月頃～11月頃の古岳付近の膨張を示す変動は、膨張した状態が維持されている。 火口付近浅部でやや活発な地震活動が継続し、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量や古岳の地熱活動は2023年6月からの活発化以前より高まった状態で、新岳火口及び古岳火口の周辺に影響を及ぼす程度の噴火の可能性がある。

令和6年10月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
岩手山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)		(前月から継続)	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	火口周辺警報	2日 15時00分	国土地理院による「だいち2号」(9/26観測)のSAR干渉解析結果で、大地獄谷周辺に衛星に近づく変動が見られる。この変動は大地獄谷付近のごく浅部の膨張を示していると考えられる。西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性があるので警戒。
		解説情報 第9～13号	2日 15時10分 4日、11日、18日、25日 16時00分	傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測で、2月頃から山体深部の膨張を示す変動が観測されている。国土地理院による「だいち2号」(9/26、10/8観測)のSAR干渉解析結果で大地獄谷周辺に衛星に近づく変動が見られ、付近のごく浅部の膨張と考えられる。黒倉山付近で微小な火山性地震が引き続き観測されている。10日の山頂付近の現地調査では、これまでの観測と比較して地熱等の状況に特段の変化は認められなかった。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第80～87号	4日、7日、11日、14日、18日、21日、21日、25日、28日 16時00分	火山性地震は、4月中旬以降増加した状態。3月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は、4月下旬から鈍化し5月以降は停滞。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は300、300、700[t/日](2、7、22日)、2023年3月以前より多い。引き続き、火口から概ね2kmに影響する噴火の可能性はある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第42～45号	7日、14日、21日、28日 16時00分	硫黄岳火口で1日に噴火が発生、噴煙は火口縁上1000m。大きな噴石は観測されず。噴火は2020年10月6日以来。9～11日の現地調査で特段の変化なし。火山性地震は少ない状態。火山性微動はなし。GNSS連続観測では、山体の膨張を示す変化はない。長期的には熱活動や噴煙活動が高まった状態が続き、火口周辺に影響する噴火の可能性はある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第47～50号	7日、14日、21日、28日 16時00分	噴火活動が継続。爆発、大きな噴石の飛散、噴煙、降灰、火映の状況。火山性微動は主に噴火に伴って発生。島の西側付近で火山性地震が26日に一時的に増加。その後は少ない状態。GNSS連続観測では島の西側深部のマグマ蓄積量増加を示す変動は認められない。長期にわたり噴火活動が継続しており、火口周辺では大きな噴石が飛散する可能性がある。
		降灰予報(速報)	11日 07:47, 11:38, 23日 01:11, 27日 07:58, 16:42, 29日 07:20	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	1日 13:38, 15:19, 18:11, 4日 13:44, 15:11, 7日 10:32, 14:02, 11日 08:00, 11:55, 22日 17:57, 23日 01:18, 27日 08:12, 16:51, 29日 07:30	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 岩手山、浅間山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報(定時)を発表している。岩手山では、2日17時に発表を開始した。